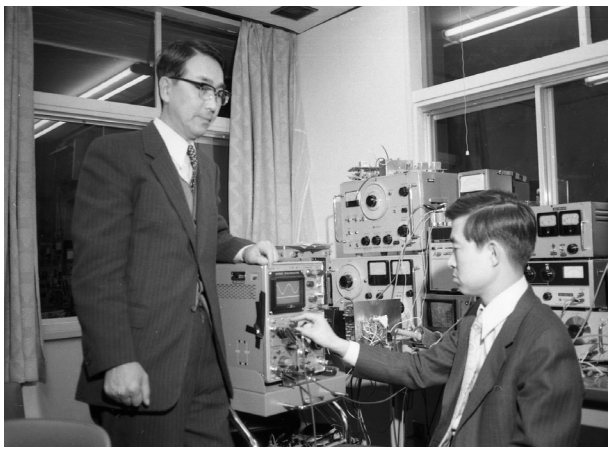
■アキュフェーズの生い立ち

アキュフェーズは、春日仲一・二郎兄弟が、トリオ㈱：現・㈱JVC ケンウッドを退社して 1972 年に創業、妥協を余儀なくされる大量生産ではなく、市場は小さくても、音にこだわり、自分たちの理想とするオーディオ機器を創りたいという思想を共有する同志が集まり、その設計・生産・販売・サービスを可能とする、孤高のオーディオ専門メーカーを目指して創立されました。

創業当時のメンバー



春日二郎と現：齋藤相談役

製品を開発して売り出すまでの一年間は、東京都大田区にあった春日二郎の自宅を事務所として設計を始めました。当時日本は、ステレオで音楽を楽しむ文化が一般的となり、オーディオ産業は盛んでしたが、大量生産の普及製品止まり、ハイエンド製品に特化しているメーカーはほとんど無く、その中で、いつかは世界で一流と呼ばれる高級オーディオ製品を創りたい…という夢の実現のためにスタートしたのがアキュフェーズです。

創業当時（春日二郎宅）での設計風景

■ケンソニックからアキュフェーズへ

最初の社名：ケンソニック株式会社、製品のブランド名：アキュフェーズ、Accuphase でスタートし、創業 10 周年目の 1982 年から『アキュフェーズ株式会社』に統一しました。

Accuphase のアキュ（Accu）は Accurate《正確な、的確な》から、フェーズはオーディオ技術に重要な phase《位相》の 2 語を合わせて、オーディオの奥義を極めたい…そんな意思を表す造語ですが、当初は知名度も全く無く、なじみのない発音ということもあり、海外メーカーですか？…とずいぶん間違われました。

創業翌年 1973 年 6 月に、現在（横浜市青葉区）の社屋が完成して移転、同年 8 月から創業第一作となる、待望のセパレート・アンプ C-200/P-300 、続いて AM/FM チューナーT-100 の生産を開始しました。

創業モデル C-200/P-300/T-100

最高の部品と革新的回路を採用し、妥協のない創りで、画期的な性能と理想の音を実現しましたが、C-200：16 万 5000 円、P-300：23 万円、そして T-100：15 万 5000 円と当時としては破格の売価になってしまいました…。

1973 年：『日本コンポグランプリ』に於いて P-300 金賞受賞

にもかかわらず、その年の秋、『日本コンポグランプリ』（ラジオ技術社主催）に於いて、P-300 が『金賞受賞』など、その音の良さと完成度の高さで市場の圧倒的支持を得ることに成功、アキュフェーズ飛躍の原動力となり、同時に日本に於けるハイエンド・オーディオの幕開けとなりました。

横浜市青葉区の本社全景

■徹底した品質の追求

創業以来、真の高級オーディオ製品を創るという高い理想を掲げて、オーディオ機器で世界の一流ブランドを目指し、『徹底して品質を追及』する真摯な姿勢で、高価になりますが、流通の完全なトレーサビリティとユーザーを失望させない独自の長期サービス体制を確立し、高音質・高性能の製品を長期間使用して頂ける方向を目指してきました。

創業から 1990 年位までの初期製品群

アキュフェーズ製品はこのような設計理念から生まれ、国内はもとより海外のオーディオ・ファイルからも高い評価と絶大な信頼をいただき、創立翌年の 3 機種（C-200/P-300/T-100）から始まり、約 50 年間での発売機種数は、実に 250 機種余り（年平均 5 機種発売）になります。

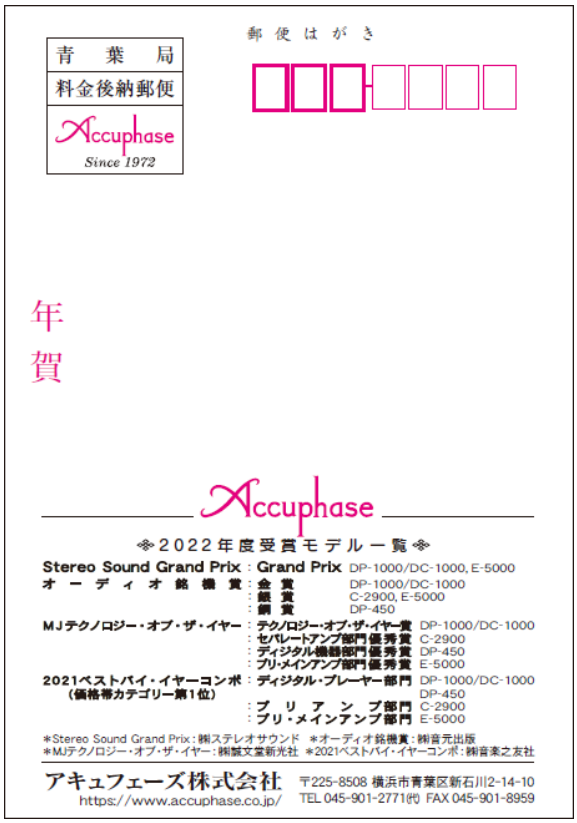
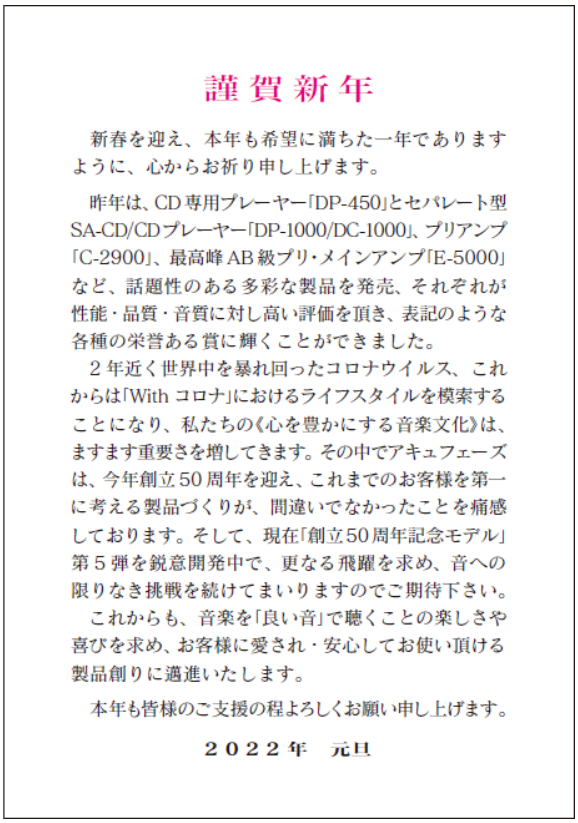
受賞した賞状・トロフィー類

今まで製造した製品を保管

この膨大な機種全ての設計・製造・販売において、一貫した企業ポリシーを貫き、高度な技術に裏打ちされた付加価値の高い製品を創り、その一つ一つが独創性と高い信頼性を保ち、歴史に残る数々の銘機を生み出してきました。その成果として、オーディオ関連の各雑誌社等が毎年行う賞イベントに於いて、多くの賞を頂いています。

そして、新製品が発売されると、設計者自らが全国各地の販売店を訪問して試聴会等を開催し、直接お客様に製品を紹介、また毎年行われる国内外のオーディオ関連イベントにも積極的に参加するなど、お客様に音を聴いて頂く機会を多数設けることを心がけています。

■毎年、年賀状を発送

お客様との関係を大事にすることから、過去一回でもご購入頂き、保証登録をして頂いたお客様全員に毎年年賀状を発送してコミュニケーションをはかっています。大変好評で、枚数は年々増えて行き、2022 年は約 5 万通お送りしました。

またこの保証登録は、何か問題が発生した場合、迅速に対処できるデータベースとしても有効に機能しています。